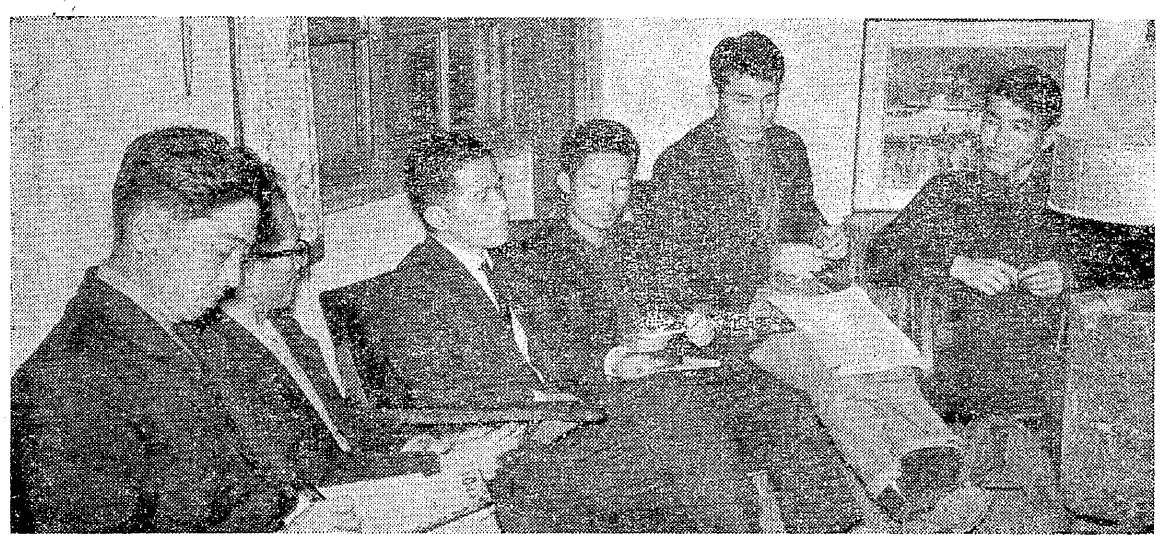
1965年闘いの展望を語る

闘いの連帯を強化し 生活と権利を確立しよう

出席者
九大助教授　奥田　八二（44才）
四山　仕繰　浦池　哲矣（24才）
本所　資材　深川　幾朗（48才）
司会編集部
宮浦　内機　墨田　昭義（26才）
四山　仕繰　伊東　猛（24才）
港務　保線　野田　一則（37才）



「今年もがんばろう」と、三池労組組合長室で
奥田先生をかこむ新春放談会

【司会】　今日はおつかれのところごくろうさまでした。本日は奥田先生をかこんで、今年の斗いの展望を語ってもらうことになりました。まず、三池の火を拡げようということがいわれていますがよそではどうでしょうか。

【奥田】　前へ行っているのと後もどりしているなーと感じるのと二つある。安保と三池といわれたあれ以降の本当の組合運動のあり方がいかにあるべきかを理解していない幹部は事務屋になっている。合理化反対斗争といえば水俣にゆくとか、カンパしようとか、顕著な全国的な二・三の例に対して応援し、自分のところは何もしない。自分の職場でつぎつぎに合理化に妥協していって、それでけっこう三池ホツパー決戦には動員してきた。そういう構えが今ものこっている。

【墨田】　私たちが職場で抵抗する。しかしそれだけで終っていたのではないか。オルグが来ても本当の交流をせずに終っているような気がする。もっと具体的な活動がおろそかになっていたのではないだろうか。

【奥田】　他の組合も合理化がはげしいから表面的には出ないかもしれないが、潜在的な影響は強い。向う側の攻撃が安保と三池の斗い以降質的に違う。以前のように進め進めだけではいけない。三池に来た人が努力を続けてもみのらん場合がある。しかしみのらんからといってやらないなら伸びない。これは斗いの経験のないところに質的に違う合理化攻撃がかけられているから、はね返せない。これまでどんな形でもいいから合理化反対斗争をやっているなら今度の職場支配、合理化は違うぞ、三池で学んだことをこうしようというように効果が表われる。それがない。だからどこを反省していいか判らない。わりあいに効果が上がっているのは全逓や国鉄だ。

資本主義体制維持の合理化攻撃

【墨田】　オルグが来て、合理化の話をすると「私のところは幸い合理化はきていない」という。（爆笑）それをきくとがっかりする。

【伊東】　以前三池に来た人とか肩書きのある人がくるとずいぶんこちら側に期待感があった。しかし以前と今とでは、組合の団結する立場からの批判や、交流をするようになった。その辺に組合員や主婦会の姿勢がずいぶん変ったようだ。

【深川】　本所の場合自分の組合で反合理化斗争をやってくれというような話題が重要。三池を特殊地域化しているのは、よその無知と三池の無知による。どちらも知り合う必要がある。そういう受入れ態勢が万全だと、ビンビンひびき合う力になる。どんな人間でも労仂者魂の一分もない人はない。ただ三池と共通なのだという意識をもたん。だから特殊化する。知れば孤立感をかんじない。われわれが斗っている後にはずっとつづいているのだという意識をもたねばならない。まだまだ合理化とは言切り、配置転換や労仂強化だけが合理化だと思っている。これは話合う必要がある。

【司会】　合理化がきびしくなったといいますが、その辺を今年にかけての資本の動きはどうでしょう。

【奥田】　設備投資を中心にもうれつな利潤追求をやってきて、一応まがりかどの段階にきた。今度は政治の段階にきた。はげしい競争で中小企業はどんどんたおれてゆく、なんとしてでも生きのびて、世界の競争市場で打勝たねばならないという、むしろ資本は外的な条件で合理化に入っている。設備投資の拡張から防衛体制に入った気がする。防衛的な合理化とは石炭斜陽産業の中で炭鉱資本がやってきた歩みではないか。だからますます三池斗争に近い攻撃が一般産業にもかけられる、そのようなきびしさ。むしろこれからの合理化は資本が追いつめられて、強引な組合の立上がりをさせない攻撃がかけられる。

【司会】　三池の場合、調査団で問題になっているのは私企業では限界がきたとさかんにいってますが。

【奥田】　調査団でそういっても、経営者の方は国有化にはさせんぞという考え方。それよりも国からできるだけ金をひき出そうという考え方だ。山をつぶしてでもやめるとはいわない。これが資本主義の体制維持の本能だ。国営になったからといってよくならないことは覚悟すべきだ。しかし、炭鉱がこれほどよりせん鋭に政治問題化している。しかし資本は絶対に動かないし、資本と労仂者の全面的な力関係からみたときに国営化することは、政治権力の側約を組合側がむしろ受ける意味からもだめだ。あれだけ赤字が出ているといいながら、なぜ経営を続けるか。窮極には、何百億の赤字を出そうと国民の血税でまかなってもらおうと思えばこそ経営を続ける炭鉱はなぜ倒産しないか。結局黒字に転化する見通しがつくからやる。首切り、災害でいくら赤字が出ても良いという考え方だ。それでなければ私企業でそんなにやれるわけがない。

【司会】　今の全体的に高度成長、解放経済の中でいろいろの形で住民の收奪が行われているでしょう。

【奥田】　新産都市の問題ですが、新産都市は今やまぼろしだと一二月一六日の朝日新聞の社説ですらいっている。まぼろしを追って市政をやったら市民がめいわくするばかりだ。

【蒲池】　その辺の考え方が足らん。大牟田・荒尾が保守市長とは。

【奥田】　住民の收奪は、新産都市であれば收奪はげしくなるが、新産都市がなくても、赤字ということで水道料金から手数料から全部値上げされ、住民が負担しなきゃならない税金はせいいっぱいとられる。また教育負担とか、父兄負担、地元負担などとってゆく。これは新産都市でなくてもとれるし、新産都市はもっととろうというものである。

敵の攻撃に対してどう対決したらいいかという理解が不足している

【奥田】　内部の問題として、オルグに来た人を一応徹底的に合理化とは何かを教えると同時に、一般の合理化攻撃はこういうもので、三池ではこうだけれども、あなたのところでこういうことはありませんかといえる位に、他の職場での合理化の姿を組合員に教育する。こういう受入れ態勢が出来てくることがより交流の成果をつくりあげることになる。こっちはこっちのことを並べる。向うは三池は特殊な組合だ。うちは三池のようでなくてよかったという気持で帰られたのではつまらん。違うけれども同じだという共感をよびあう話題が重要。三池を特殊地域化しているのは、よその無知と三池の無知による。どちらも知り合う必要がある。そういう受入れ態勢が万全だと、ビンビンひびき合う力になる。どんな人間でも労仂者魂の一分もない人はない。ただ三池と共通なのだという意識をもたん。だから特殊化する。知れば孤立感をかんじない。われわれが斗っている後にはずっとつづいているのだという意識をもたねばならない。まだまだ合理化とは言切り、配置転換や労仂強化だけが合理化だと思っている。これは話合う必要がある。

【司会】　合理化がきびしくなったといいますが、その辺を今年にかけての資本の動きはどうでしょう。

【奥田】　設備投資を中心にもうれつな利潤追求をやってきて、一応まがりかどの段階にきた。今度は政治の段階にきた。はげしい競争で中小企業はどんどんたおれてゆく、なんとしてでも生きのびて、世界の競争市場で打勝たねばならないという、むしろ資本は外的な条件で合理化に入っている。設備投資の拡張から防衛体制に入った気がする。防衛的な合理化とは石炭斜陽産業の中で炭鉱資本がやってきた歩みではないか。だからますます三池斗争に近い攻撃が一般産業にもかけられる、そのようなきびしさ。むしろこれからの合理化は資本が追いつめられて、強引な組合の立上がりをさせない攻撃がかけられる。

【司会】　三池の場合、調査団で問題になっているのは私企業では限界がきたとさかんにいってますが。

【奥田】　調査団でそういっても、経営者の方は国有化にはさせんぞという考え方。それよりも国からできるだけ金をひき出そうという考え方だ。山をつぶしてでもやめるとはいわない。これが資本主義の体制維持の本能だ。国営になったからといってよくならないことは覚悟すべきだ。しかし、炭鉱がこれほどよりせん鋭に政治問題化している。しかし資本は絶対に動かないし、資本と労仂者の全面的な力関係からみたときに国営化することは、政治権力の側約を組合側がむしろ受ける意味からもだめだ。あれだけ赤字が出ているといいながら、なぜ経営を続けるか。窮極には、何百億の赤字を出そうと国民の血税でまかなってもらおうと思えばこそ経営を続ける炭鉱はなぜ倒産しないか。結局黒字に転化する見通しがつくからやる。首切り、災害でいくら赤字が出ても良いという考え方だ。それでなければ私企業でそんなにやれるわけがない。

【司会】　今の全体的に高度成長、解放経済の中でいろいろの形で住民の收奪が行われているでしょう。

【奥田】　新産都市の問題ですが、新産都市は今やまぼろしだと一二月一六日の朝日新聞の社説ですらいっている。まぼろしを追って市政をやったら市民がめいわくするばかりだ。

【蒲池】　その辺の考え方が足らん。大牟田・荒尾が保守市長とは。

【奥田】　住民の收奪は、新産都市であれば收奪はげしくなるが、新産都市がなくても、赤字ということで水道料金から手数料から全部値上げされ、住民が負担しなきゃならない税金はせいいっぱいとられる。また教育負担とか、父兄負担、地元負担などとってゆく。これは新産都市でなくてもとれるし、新産都市はもっととろうというものである。

一人一人の抵抗を 今年の抱負

【司会】　それでは今年の抱負を聞かせて下さい。

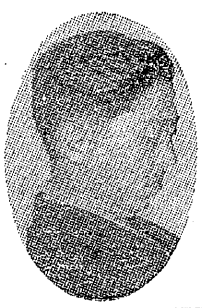
【伊東】　今五人組を中心に職場集会等を一生懸命にやっているところがそれだけではいけない。先生から指摘されたように、他所の合理化を知れば自分たちのやっていることにも自信をもつだろうし、それと今まで政治性にとぼしかったのでそれをとり入れてゆきたい。

【蒲池】　抽象的になるが、長期抵抗の構えで斗う姿勢を拡げるためにしっかりがんばりたい。

【墨田】　今年は重要な年になると思う。会社は四〇年度は何がなんでも二万トン体制をつくる構えでくる。その表われとして職場には今まで以上のものすごい切り崩しと労仂強化が出てくる。という意味では私たちの抵抗はもっと強化されなければならない。今の三池労組の斗いは一部の幹部依存の態勢からぬけきらない弱さがある。これからは職場における一人一人の労仂者自身の抵抗が必要だそれを五人組を中心とした大衆討議の中から作り出してゆくことを一番期待している。

【深川】　期末手当斗争の中で特にかんじたことだが、第二組合が足をひっぱる状態を、私たちが何も仕きかけをしないなら第二組合も含めて全体に生活が引き下げられる結果になる。その辺を第二組合にどう理解させて、第一に復帰しないまでも、自分たちもやらなければ自分たちの生活が下るのだという意識をもたせるように仕きかけるべきだと思う。それに組合員には長期抵抗路線がおざなりにいわれているが、その本当の意義を学習活動の中から抵抗する明るい展望もひらけてくると思う。

【野田】　まだ幹部依存が多い何か敗北主義におち入って、幹部は何をしとるか、委員は何をしとるかということが出る。このようにまだ組織内部にも弱点はある。だから斗いを大きく拡げることも必要だが、一人一人が「やるぞ」という気はくをもつことが重要だと思う。そのような内部固めをやりたい。



【奥田】　みんなの意見をみんなが自信をもってゆくことが大切特に三池に望むことは、孤立しているのではないかという不安感が己れ自身にもあることを克服すること。

【司会】　本日はありがとうございました。今年もよろしくがんばりましょう。